

1. プログラムのねらい、共に育みたい力

◇ねらい

- ・ 小学校就学前に寝屋川市の幼稚園・保育所（園）・認定こども園で共に育みたい力について共有する。
- ・ 各園所における取組に共に育みたい力の育成の観点を取り入れることで、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながる幼児教育でのより良い育ちをめざす。

◇寝屋川の目指す子ども像

～心豊かで、思いやりがあり、元気に生きる子～

1. 確かな学力を身につけた子ども・・・主体的に問題解決する力
2. 学ぶ意欲、学ぶ習慣を身につけた子ども・・・生涯にわたって学び続ける力
3. コミュニケーション力と情報活用能力を身につけた子ども・・・世界にはばたく力
4. 心豊かで思いやりのある子ども・・・人、社会を大切にする力
5. 健康で元気な子ども・・・たくましく生きる力

◇共に育みたい力

幼稚園・保育所(園)・認定こども園

学びに向かう力

遊びや生活、体験を通して、
好奇心や探究心を持ち、周囲の環境に
主体的に関わる力

人とかかわる力

自分の気持ちや思いを言葉で伝えたり、
相手の話を注意して聞く力

生活する力

基本的な生活習慣や体力・運動能力の
基礎を身に付け、健康で安全な生活を
つくり出す力

家庭

地域

◇共に育みたい力の具体的な姿

【学びに向かう力】

- 身近な環境や自然などに触れ、関心を持つ (好奇心)
- わからないことや疑問に思ったことを自分で調べる (探究心)
- 繰り返し試したり、考えたりする (試行錯誤)
- 物の性質やしぐみに気づいたり、その特徴を使ったりする (気づき・活用)
- 数量や図形、標識、文字などに触れ、興味や関心、感覚をもつ (興味・関心)
- わかった・できた喜びを次への意欲につなげる (意欲)

【人とかかわる力】

- 相手の話を注意して聞く (聞く)
- 言葉で自分の気持ちや思いを伝え合う (伝え合う)
- 友達を思いやり、互いに認め合う (思いやり)
- 自分の気持ちを調整したり、友達と折り合いをつけたり
しながら楽しく遊ぶ (折り合い・協同性)
- 感じたことや考えたことを工夫して表現する (表現)
- たくさんの絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにする (言葉)

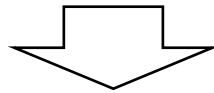
【生活する力】

- 食事や排せつ、睡眠、準備、片付け、着替えなど生活に必要な
習慣を身につける (生活習慣)
- 生活の仕方を知り、見通しをもって行動する (自立)
- 自分から進んで挨拶や返事をする (挨拶・返事)
- してよいことや悪いことがあることに気づき、きまりや
ルールを守る 「テレビ、ゲーム、スマホなど」 (規範意識)
- 難しいことでも諦めずにやり遂げる (ねばり強さ)
- 友達と一緒に体を動かして遊ぶ楽しさを味わい、さまざまな
体の動きを獲得する (運動)

2. 寝屋川市における就学前教育と小学校以降の教育とのつながり

○幼稚園・保育所（園）・認定こども園に求められること

- ・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領改訂において共通して示された共有すべき事項を共通理解する。
- ・合同研修や交流により互いの取組を知る。
- ・小学校教育の前倒しをするのではなく、小・中学校の教育へのつながりを意識した上で、幼児期にふさわしい生活を通して、一人一人の特性に応じ、小学校教育以降の生活や学習につながる基盤を培う。



円滑な接続をはかる

○小学校に求められること

- ・「共に育みたい力」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」、幼稚園・保育所（園）・認定こども園等との交流を手掛かりに、幼児期の教育を通じて培った力について理解し、小学校での学習や生活にいかす。
- ・一人一人の子どもの状況をていねいに把握する。
- ・園所での経験が小学校での学習につながるように、特に入学当初は時間配分に配慮し、活動性のある学習を行うなど工夫して取組む。

学びに向かう力を育む活動

ごっこあそびをしよう

【共に育みたい力の具体的な姿】

- 身近な環境や自然などに触れ、関心を持つ (学びに向かう力)
- 繰り返し試したり、考えたりする (学びに向かう力)
- 自分の気持ちを調整したり、友達と折り合いをつけたりしながら楽しく遊ぶ (人とかかわる力)

これまでの経験

- ◎生活の中で経験したことや楽しかった場面などを再現して楽しむ。
- ◇抱っこ人形を赤ちゃんに見立て、家の人や先生などの役になり、生活を再現して楽しむ。

5歳児における活動の展開

- ・お互いの思いや考えを出し合いながら、どんなお店があるかみんなで話をする。
- ・お店屋さんに必要なものを自分たちで、材料を選び、考えて工夫してつくる。
- ・お店屋さん、お買い物との2つの役割を決め、それぞれの役になってやりとりしたり、自分たちで約束を決めたりして遊ぶ。

活動の中で見られる子どもの姿

- ・行ったことのあるお店や経験したことなどを伝え合いながら、「こんな品物があったらいいな。」など、考えたことを遊びの中に取り入れる。
- ・自分の思いが相手に伝わらなかったり、思うように遊びが進まず、葛藤する場面もあるが、友達とのやりとりの中で、より良い方法を見つけ出す。
- ・お店屋さんに来てくれた子の注文や意見を受け、さらに遊びを発展していこうとする。



環境の構成

- ◇「こんなお店屋さんになりたい」という子どものイメージや思いをもとに、必要なものを子どもたちがつくれるよう、いろいろな素材を準備しておく。
- ◇お店屋さんごっこに適した広さや場所を子ども達とともに考え、環境を整えていく。

援助のポイント

- ◎日々の生活での体験を振り返り、いろいろなお店があることに気づかせ、子どもがイメージをもって楽しめるようにする。
- ◎さまざまな役割を決めて、ストーリー性のある遊びを取り入れる。
- ◎イメージがもちにくい場合は、実物をみたり、物のやりとりを楽しむことから始める。
- ◎自分たちできまりや約束を考えたり決めたりして遊べるように、話し合う場を設定する。

学びに向かう力を育む活動

野菜を育てよう

【共に育みたい力の具体的な姿】

- 身近な環境や自然などに触れ、関心を持つ（学びに向かう力）
- わからないことや疑問に思ったことを自分で調べる（学びに向かう力）
- 物の性質やしぐみに気づいたり、その特徴を使ったりする（学びに向かう力）

これまでの経験

- ◎ 食べることを楽しみ、いろいろな食材に興味を持つ。
- ◇ 自然の中で土にふれ、畑での野菜の成長や収穫を知り、興味を広げる。

5歳児における活動の展開

- ・ トマトやキュウリ、ピーマン、さつまいもなどの野菜が畑で育ち、収穫できることを知る。
- ・ 土にふれ、みんなで畑をつくり、トマトの苗を植える。
- ・ 水やりや草引きなど、お世話をしながら野菜の成長過程を知り、収穫への期待をもって育てる。
- ・ 収穫をみんなで喜び、トマトを使った献立や料理を知り、園や家庭で作って楽しむ。

活動の中で見られる子どもの姿

- ・ 畑に水やりに行った子どもが「先生、トマトが赤くなってきた。」と発見したことを嬉しそうに伝えに来る。
- ・ 保育者も見に行き、「もう食べられそうかな？」と聞くと、「下の方が緑色だから、まだ食べられない。」と答える。保育者が「本当だね。でも、どうして下の方だけ緑色なのかな？」と話しかける。
- ・ 教室に戻ると、教室に置いてあった植物の本を見つけ、友達同士で調べ始める。

おいしそうなおトマト！
もう食べられるかな？



環境の構成

- ◇ すすんで世話ができるようにじょうろ等を複数用意し、自由に使えるようにしておく。
- ◇ 誰でも疑問に思ったことを調べられるように図鑑や本を用意しておく。
- ◇ 収穫物を使って簡単な調理をする中で、収穫の喜びや食育につなげる。

援助のポイント

- ◎ 子どもが気づいたことに保育者も関心を寄せ、一緒に驚いたり不思議さに共感したりする。
- ◎ 世話をしながら気づいたことや、これまでの経験で知っていることを共有し、野菜の成長に喜びを感じたり期待を持ったりする。

人とかかわる力を育む活動

絵本に親しもう

【共に育みたい力の具体的な姿】

- たくさんの本に親しみ、言葉に対する感覚を豊かにする（人とかかわる力）
- 言葉で自分の気持ちや思いを伝え合う（人とかかわる力）
- 数量や図形、標識、文字などに触れ、興味や関心、感覚をもつ（学びに向かう力）

これまでの経験

- ◎ 絵本を読んでもらうことで興味をひろげ、やりとりを楽しむ。
- ◇ いろいろな絵本にふれ、実際に手にとり、自分で絵本をみたり、読んだりする。

5歳児における活動の展開

- ・ 保育者が読む本のストーリーの続きを想像しながら興味をもって聞く。
- ・ 絵本を読んでもらう中で、登場人物の気持ちを考えたり、感じたことを友達と話し、思ったことを共感する楽しさを感じる。
- ・ 絵本を借りて帰り、家でも絵本を楽しむ。

活動の中で見られる子どもの姿

- ・ 保育者が絵本の続きを読もうと、子どもたちの前に座ると、「昨日の続きはどうなるんだろう?」「うまく探検できるかな?」などと、話を想像して楽しみにしている。
- ・ 保育者が読み始めると、主人公の気持ちに共感しながら聞いたり、「ドキドキしたね。」「ああ、おもしろかった。お家の人にも教えてあげよう。」など、感じたことを近くにいる友達につぶやいたりする。

この絵本おもしろいなあ。
お家の人にも教えてあげよう!



環境の構成

- ◇ 実際に手に取って絵本にふれるなど生活の中で聞いたり、見たりできる機会を増やす。
- ◇ 話のシンボルとなる絵などを壁面に貼っておき、内容や場面、次の展開を想像したりして絵本の世界を楽しめるようにする。
- ◇ くりかえしのあるストーリーや言葉遊び、興味を広げる素材、英語の絵本など年齢にあった絵本を豊富に準備しておく。

援助のポイント

- ◎ ゆったりとした雰囲気の中で語り掛けるように話し、聞きたい気持ちが持てるようにする。
- ◎ いろいろな事象に興味をもてるよう、読みきかせをする中で、絵本が楽しいという経験を広げていくようにする。
- ◎ 保育者が子どもの反応を受け止めることで、人の話を聞く意欲へつながるようにする。
- ◎ 絵本に興味を持ちにくいときは、見て楽しめるものや、簡単な繰り返しのある本と一緒にみる。

人とかかわる力を育む活動

集団あそびをみんなで楽しもう

【共に育みたい力の具体的な姿】

- 自分の気持ちを調整したり、友達と折り合いをつけたりしながら楽しく遊ぶ（人とかかわる力）
- 言葉で自分の気持ちや思いを伝え合う（人とかかわる力）
- 友達を思いやり、互いに認め合う（人とかかわる力）

これまでの経験

- ◎ 友達と一緒に簡単なルールのある遊びを楽しむ。
- ◇ 遊びを通して、友達と一緒に遊ぶ楽しさや、人とつながる楽しさを知る。

5歳児における活動の展開

- ・ 友達同士で自分の思いや考えを伝え合いながら遊ぶ。
- ・ 遊びの中で起きた問題について関心を持ち、ルールについて考えを出し合いながら、新しいルールを作ったり、守ったりして遊ぶ。
- ・ 新しいルールを作って楽しく遊んだ話をみんなに聞いてもらい、自分たちで問題を解決し、ルールを守って遊べた満足感を実感する。

活動の中で見られる子どもの姿

- ・ 「鬼ごっこをする人、この指とまれ。」と、グループで遊び始める。
- ・ 「なかなか捕まえられない。」などと、遊びの中での問題について友達に伝える。
- ・ 「鬼の数を増やそう。」「安全地帯をつくろう。」などと、どうしたらよいか考えを出し合いみんなで共通理解し、新しいルールで再び鬼ごっこを始める。

みんなで遊ぶと
楽しいね！

環境の構成

- ◇ 十分な広さを確保し、安全に留意する。
- ◇ 遊ぶ楽しさが味わえるように、意図的に用具の数や場の設定を変更する。
- ◇ いつもの遊びの中で、子どもの思いや考えが全体に伝わるよう、ルールを変えるなど工夫する。

援助のポイント

- ◎ 思うように遊びが進んでいない場合には、状況を見ながら子どもたち同士で話し合い、解決策が見つかるように援助することで、ルールや約束の大切さに気付いていけるようにする。
- ◎ 活動に参加しにくい子どもには、何をすればよいか分かりやすいように伝え、より興味が持てるように配慮することで「楽しい！またやりたい！」と思えるような活動を工夫する。

生活する力を育む活動

体を使った遊びを楽しもう

【共に育みたい力の具体的な姿】

- 友達と一緒に体を動かして遊ぶ楽しさを味わい、さまざまな体の動きを獲得する（生活する力）
- してよいことや悪いことがあることに気づき、きまりやルールを守る（生活する力）
- わかった・できた喜びを次への意欲につなげる（学びに向かう力）

これまでの経験

- ◎ 様々な運動遊びを楽しみ、運動能力の基礎を培う。
- ◇ 走る、投げる、跳ぶ、登るなどの運動をくり返し楽しむ。

5歳児における活動の展開

- ・ 遊びのルールを知る。（ボールを投げる・受ける・パスをする・当てる・逃げる・タグを取る）
- ・ 自分たちでルールを考えたり作ったりする。
- ・ 作戦を考える中で、自分の思いを伝えたり、友達と力を合わせて、頑張ろうとする。

活動の中で見られる子どもの姿

- ・ ドッジボールでは、ねらいを定めてボールを投げることを楽しみ、うまく当たったり、避けたりすることができることに喜んでいいる。
- ・ ボールを投げたくて、必死に転がるボールを追いかけている。
- ・ 友達とボールを取り合う姿があるが、ジャンケンで決めたり、「まだ1回も投げていないから」と譲り合う姿や、「〇〇さんが先にボールを取っていた。」など周りの意見に耳を傾け、子ども同士で解決しようとする。

どこをねらえば
あたりやすいか
なあ・・・



環境の構成

- ◇ 一人一人が使えるよう、十分な数のボール等を準備する。
- ◇ のびのび活動できるスペースの確保と安全面に留意する。子どもの技能によって、コート広さや長さを変える。
- ◇ ボール投げ等の体力測定等を取り入れ、目標を持って取り組ませる。

援助のポイント

- ◎ 子どものモデルとなってボールを投げたり、避けたりして、体を動かす楽しさを伝える。
- ◎ 勝敗により友達を責めるのではなく、子ども同士のやりとりを見守りながら、お互いの思いを出し合い、解決していけるようにする。
- ◎ 活動に参加しにくい子どもには、友達の動きを見せたり、保育者と一緒に活動し楽しさを共有できるようにする。

生活する力を育む活動

リズムに合わせて歌ったり踊ったりしよう

【共に育みたい力の具体的な姿】

- 友達と一緒に体を動かして遊ぶ楽しさを味わい、さまざまな体の動きを獲得する（生活する力）
- 難しいことでも諦めずにやり遂げる。（生活する力）
- わかった・できた喜びを次への意欲につなげる。（学びに向かう力）

これまでの経験

- ◎さまざまな音楽に触れ、感性を豊かにし、いろいろな方法で表現する。
- ◇音楽に合わせて振り付けを考えたり、いろいろな楽器を使って楽しむ。

5歳児における活動の展開

- ・手拍子、スキップ、弾む、回るなど友達と気持ちを合わせて歌ったり踊ったり、声や動きがそろって気持ちよさを味わえるよう、お互いに見合ったりする場面や、発表する機会をつくる。
- ・歌や表現活動の中に英語遊びを取り入れ、英語のリズムやイントネーションを感じることで、英語を聞く機会や親しみを持つ場面をつくる。
- ・いろいろな楽器や音楽に親しむとともに、自分たちで振付・衣装・手作り楽器を考えたり、作ったりすることで、作り上げた喜びや達成感が味わえるよう題材を工夫する。

活動の中で見られる子どもの姿

- ・友達どうして、歌やリズムにあわせていろいろな動きを試したり表現することで「ダンスって楽しいな。」と楽しそうに踊っている。
- ・友達と見合ったり、映像を見たりして、「もっと手を伸ばそう。」などと子ども同士で教え合う。友達と動きや声そろって「そろって気持ちいいね。」と気付く。
- ・何回も練習し、できるようになったことの喜びやうれしさから「みて、みて〜。」と、誰かに見てもらいたいという気持ちになる。

みんなで、気持ちをあわせておどろう！



環境の構成

- ◇自分の動きだけでなく、友達と動きや声をそろえることの心地よさを感じることが出来る場面を設定する。
- ◇楽器等、子どもたちがすぐに手にとれるよう、身近な場所へ置いておく。
- ◇イメージを持って手作り楽器が作れるようないろいろな素材を準備しておく。
- ◇のびのびと活動できる広い場所を確保する。

援助のポイント

- ◎子どもたちが曲をきいてイメージを持ち、自ら楽しんで活動できるようにする。
- ◎子どもたちが表現しやすいような題材や曲、動きにする。
- ◎映像などを用いて自分の動きや全体の動きを意識させる。
- ◎活動に参加しにくい子どもには、個々の成長に沿った援助を行う。

4. 家庭・地域との連携

① 園所と保護者とのつながり

園所と保護者が日頃からコミュニケーションをはかり、日頃の子どもの様子を伝え合うことで、子どもの育ちを共有し、子どもへの適切な教育・保育の提供や、相互の信頼関係づくりにつながります。

(取組の例)

- ・連絡帳やおたよりなどを通して、各園所と家庭で子どもの様子を共有する。
- ・運動会や生活発表会などの行事では、保護者と共に子どもの成長を確かめあう場とする。

② 親子・保護者同士のつながり

園所において親子がふれあえる時間や機会をもつことで、子どもの心の安らぎや親子の絆づくりにつながります。また、保護者同士が情報交換や日常会話などを通して、抱えている不安や悩みの解消につなげます。

(取組の例)

- ・園庭（所庭）開放を実施し、安全な遊び場を提供することで、親子・保護者同士の交流を行う。
- ・絵本室等の施設を開放し、親子での読み聞かせや、絵本の貸出を行う。

③ 地域連携をいかした子育て支援

地域や関係機関と協力し、子どもの生活体験をより豊かなものとしていくことが大切です。各種団体をはじめとした地域の方々の協力を得て、地域で子どもを支え・見守ることで、保護者の子育て不安の軽減や子どものよりよい成長につなげていきます。

(取組の例)

- ・地域の専門的な技術や知識を持った方々を招き、様々な遊びや活動を通して交流する場を作る。
- ・高齢者とのふれあい交流を行う。（施設訪問、行事への参加）

5. 小学校教育との円滑な接続

① 幼稚園・保育所（園）・認定こども園の連携・交流

子どもの発達段階を踏まえ、小学校就学を見据えた教育・保育を実践していくためには、幼稚園・保育所（園）の保育者が互いの教育内容や指導内容について理解を深めることが大切です。また、子ども同士のかかわりは、子どもの豊かな心や健やかな体を育むことにつながることから、子ども同士がふれあう機会を充実させることが求められます。

② 小学校との連携・交流

子どもの発達と学びの連続性を確保するためには、子どもの発達を長期的な視点で捉え、園所と小学校が教育内容や指導方法の違い、共通点について理解を深めることが大切です。特に5歳児が小学校就学に向けて自信や期待を高められるよう、小学校との交流の機会を設けて連携を図り、就学前の教育の成果が小学校につながるよう、円滑に接続することが求められます。

- ※ 小学校・幼稚園・保育所（園）のそれぞれの1日の生活例を記載し、互いに理解する資料とする。
- ※ 参考資料として巻末に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（教育要領等）を加える。